



- 商標登録第6637227号
- 特許第7261516号



ポータブル通信電流計 データ統合アプリ  
**ENIMAS** **ENIMAS PRO**

第136回 かわさき起業家オーディション  
**「かわさき起業家賞」 受賞**

## 電気のかんたんモニタリングツール 「エニマス」



株式会社エニマス

代表取締役社長  
**小林 昌純**

2023年7月7日は世界平均気温が過去最高を記録し、日本でも気温40度を超える地点が多く発生しました。地球温暖化は無視できない状況まで迫っており、気候変動が引き起こす土砂災害や河川の氾濫も過去に類を見ないほど増えています。こうした状況から、投資家の間でも環境に配慮する企業に注目したESG投資が主流となりつつあり、中小企業にも脱炭素化やカーボンニュートラルにシフトした経営が求められてきています。

企業として脱炭素化を目指すには、まず自身の会社の運用を見直していくことが大切です。自社の電気使用の状況を検証できないようでは、エネルギーに関わるビジネスに取り組んでいくことは難しいのではないかと考えた私たちは、まず自分たちのエネルギーの使い方を見直し、改善していくために「エニマス」を開発しました。

当社は、「節電を通じて温室効果ガスの排出を削減し地球温暖化を止めること」をミッションとして掲げています。エニマスを多くの事業者に使っていただくことでCO<sub>2</sub>削減に貢献し、安心して暮らせる地球を守っていきたいと思います。

## ■受賞したビジネスに至った経緯

エニマスが生まれたのは、私が代表を務める金属加工会社で「社内の電力使用量を見直したい」と考えたことがきっかけでした。世界中でカーボンニュートラルが叫ばれるようになり、企業活動も脱炭素の方向へ動き出しはじめています。さらに化石燃料の価格が高騰し、電気料金の値上げもはじまっている。そんな状況もあり「私たちが何か対策をしなければ」と焦りを感じるようになったのです。そのためには、まず自分たちの足元から見直すことが先決だと考え、自社工場の電気の使い方の棚卸しを始めることになりました。

自社工場では、照明から金属加工用の機械まで、さまざまな設備で電気が使われていますが、どの設備がどのくらいの電気を消費しているかまでは分かっていませんでした。そこで私たちは、ブレーカーにセンサーを取り付けて設備に流れる電流を測定し、可視化する機器をつくりました。これがエニマスの第一号機です。

実際に工場のブレーカーへエニマスを取り付けて使用してみると、今までまったく意識していなかった「無駄」がいろいろ見えてくるようになりました。例えば、工場が休みで機械が動いていなくても、電源が入っているだけでかなりの電気を使用していることが判明したのです。見える化されたデータをもとに、無駄な電力を止めるよう心がけただけで、多くの電力を削減することができました。手ごたえは感じたものの、この時はあくまで自社のために開発したツールであり、販売することは考えていませんでした。ところが2020年10月に、風向きが変わることになりました。日本政府が「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言したのです。国を挙げて脱炭素を推進する方針が決定したことで、エニマスはこれからの時代にマッチする製品になるはずと事業化を決意し、新たなチャレンジを目指していくことになりました。

## ■サービスの特徴

エニマスは、主に企業などの事業所で使用されている電気の中身を明らかにし、専用のWebアプリから、どの機器がどれくらいの電気を使っているかを「見える化」するツールです。2023年2月からすでに80台を超える導入実績があり、製造業やサービス業のほか、カーボンニュートラルやゼロカーボンを推進する自治体の施策としても利用されています。

電力測定機器は他社でも販売されていますが、エニマスのようにデータをブレーカーごとに測定し、集計・表示・可視化できるシステムは他にありません。電気の使用量や金額をリアルタイムで確認できるため、無駄に垂れ流されている電気を確認しやすく、節電への取り組みを進めやすいことが特徴です。使う電気の優先順位や時間を決めたり、不要なものを処分したり、省エネ機器へ切り替えたりなどの改善策も見えてきます。無駄な部分を把握することができれば、そこを省こうとするのが人間の性です。エニマスのおかげで、自然と節電に向けた行動を取っているという企業を増やしていきます。

## ■現状の課題

今後は、エニマスと同じような機能を持つ製品も市場に出てくだろうと想定しています。そうした製品との差別化がこれからの課題の一つになってくるでしょう。また、エニマスを導入していただいたお客さまから「こういった機能もあればうれしい」という声も上がっていますので、いただいた意見を反映し、付加価値をさらに向上させていきたいと思っています。

直近では、無駄な電気を自動でオフにする「デマンドコントローラー」を実装予定で、2024年中にはリリースする計画です。また、組織体制の強化も必要になってきています。社会からのニーズは高まっているものの、人材や資金がまだ足りていません。ゆくゆくは採用活動を行い、自社の営業部隊を増やしたいところですが、まずは販売代理店の力を借りながら、エニマスという製品を幅広く知ってもらうことから始めていきます。

## ■今後の展開

エニマスに興味を持っていただいたお客さまからは、「節電に向けて具体的にどうすればいいかを教えてほしい」という意見も多くいただくようになりました。たしかに「見える化」をするだけでは電気の使用量を抑えることはできず、節電に向けた何らかのアクションが必要です。これからはハードの整備だけでなく、どう節電を進めていくべきかをアドバイスするコンサルティングサービスの提供も必要になってくるだろうと考えています。

また、長期的な視点で達成したい目標もあります。それは、エニマスを通した「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」の実現です。企業はエニマスを購入することでCO<sub>2</sub>排出を削減し、当社はいただいた購入資金で森林組合を支援します。そして森林が整備され、豊かな森が育まれれば、CO<sub>2</sub>の吸収量を上げることができます。そこで増えた分の吸収量をクレジット化し、またお客さまに還元できるような循環をつくっていきたく考えています。親会社のある相模原市は土地の7割ほどが山林ですが、国産の木が売れないため森林の整備が進まず、土砂災害が多くなってきています。こうした状況を変えるために、小さな一歩から始めていきたいです。そしてゆくゆくは森林だけでなく、海洋のサンゴやワカメ、コンブなど、CO<sub>2</sub>を多く吸収する環境を支援していくことを目指します。

## ■エントリーを検討中の方へ一言

ビジネスオーディションに参加するのは今回が初めてだったので、一からのチャレンジでした。資料をつくるのに試行錯誤し、伝えたい内容を短くまとめて話すことも得意ではないので苦労しましたが、とてもよい経験になりました。また、賞をいただいたことでさまざまな企業や自治体とのつながりが生まれ、最近では毎日のようにメールのやり取りや、オンライン商談などの予定が入っています。

先日、名古屋の展示会に参加したのですが、「かわさき起業家オーディションで受賞しました」と伝えると、みなさんすごく興味を持って熱心に話を聞いてくれました。「川崎市」のネームバリューのすごさを改めて実感しています。こういうチャンスがあれば失敗を恐れずに、どんどんやるべきだと痛感しました。まずは一歩踏み出してみると、道は広がっていくと思います。ぜひチャレンジしてみてください。

会社名：株式会社エニマス

住所：〒194-0013

東京都町田市原町田4-11-13 (本社)

〒210-0007

神奈川県川崎市川崎区駅前本町11-2

川崎フロンティアビル4階 (川崎営業所)

電話番号：☎050-5784-7145

ホームページ：https://www.enimas.co.jp